

# 第1学年 国語科学習指導案

指導者 高井 菜月  
場 所 1階1年教室

1. 単元名 くらべてよもう  
教材名「じどう車くらべ」

## 2. 単元の目標

- ・身近な自動車の「仕事」と「つくり」に興味をもち、説明文や絵本、図鑑を読もうとしている。  
(関・意・態)
- ・知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。  
(読イ・エ・カ)
- ・事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。  
(書イ・ウ・オ)
- ・片仮名で、長音、拗音、促音を表記することができる。  
(伝国イ(エ)(オ)・ウ(ア))

## 3. 指導にあたって

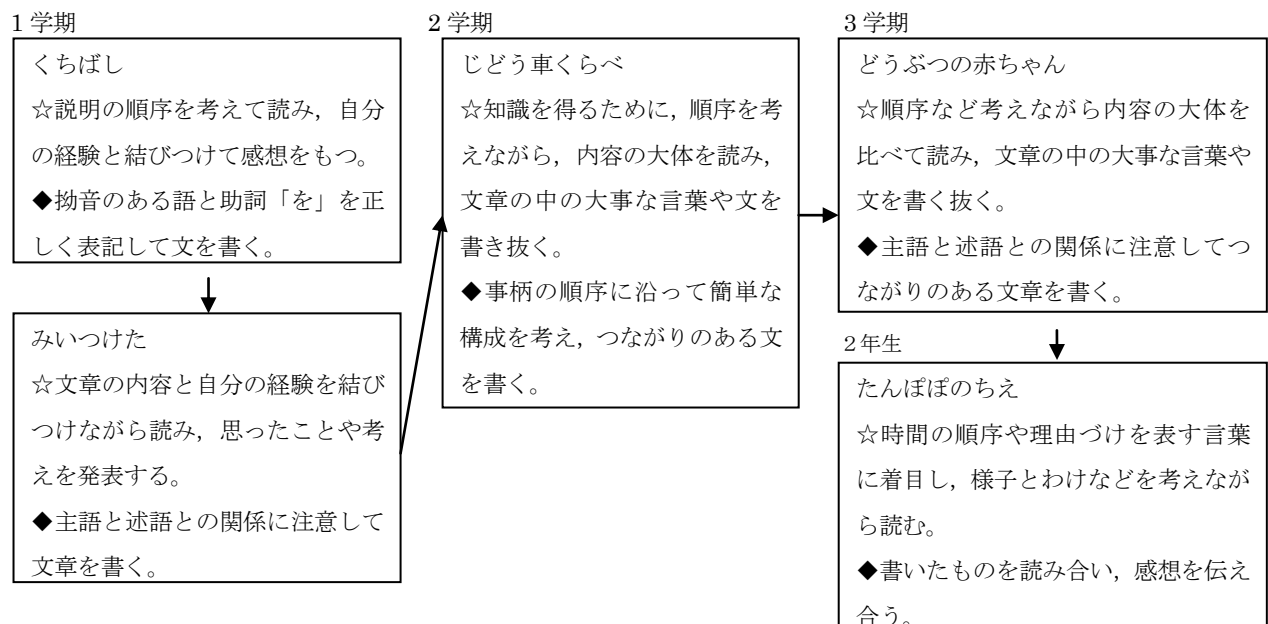
### (1) 教材観

本教材は、児童にとって身近な自動車の仕事とつくりの関係を取り上げた説明的文章である。児童がよく知っている自動車についての話題から文章が構成されており、物語を好む傾向のある児童も説明的文章に自然と接することができ、興味をもって学習に取り組める教材である。また、「問いー問いー答えー答えー答え」という、2つの問いと答えが並んだ列挙型の構成となっている。問いに対する答えの3つの段落は、それぞれに内容や順序が「しごと→つくり→つくり」と類比的で、1年生にとって分かりやすい文章構成である。

また、「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」という2つの問いを中心に、「しごと」と「つくり」という単元を貫く2つの読みの観点が定められている。これらの観点から、3つの自動車の事例を比較して読んでいく。そして、2つの観点が「そのために」という言葉でつながっており、それぞれの自動車の「しごと」のための「つくり」になっているというような2つの関係性を読み取ることができる文章である。

さらに、読み取った「しごと」と「つくり」を書き抜いて整理することで2つの関係性の理解を深め、ここで学んだ文章の形式を生かして自分の好きな自動車の「しごと」と「つくり」について再構成して説明的文章を書く学習を展開する。それにより、2つの観点の関係性を十分に認識させることができる。

<単元の系統> (☆…読むこと、◆…書くこと)



## (2) 児童観

本学級の児童は、朝読書の時間を中心とした読書活動や並行読書に積極的に取り組んでいる。物語に興味を示す児童が多いが、「くちばし」の学習後、図鑑を手取る児童が増えた。図鑑から読み取ったことや、得た知識を積極的に伝え合う様子も見られる。

読むことに関しては、「みいつけた」の学習で、1つの問いに対して3つの答えの段落が並記された構成の文章を読んでいる。ここでは、問いと答えの繰り返された文型に目を向け、それらを読み取ることや順序のきまりを見つけることができた。しかし、大事な言葉や文を書き抜く学習を取り入れたが、大事な言葉や文を抜き出すことが困難な児童も見られた。

書くことに関しては、どの児童も一つひとつの平仮名の読み書きができるようになったが、助詞の「は」「を」「へ」を正しく使うことが難しい児童もいる。「みいつけた」の学習の単元末では、学習した説明文の順序や表現方法を活用し、生活科の時間に見つけた生きものについて簡単な構成の説明的文章を書く経験をした。しかし、順序に沿って文を書くことや、句読点を使ってつながりある文を書くことが難しい。「しらせたいな見せたいな」の学習では、語と語の続き方に注意し、句読点を使ってつながりある文にして観察したことを記録する活動をしたが、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えて書くことが困難な児童も見られた。そのため、自分の思いや考えをノートに書く活動を取り入れ、正しく書く意識をもてるよう継続して取り組んでいる現状である。

## (3) 指導観

本単元では、事柄の順序を意識して内容の大体を読み、「しごと」や「つくり」などの大事な文を書き抜く力、そして、読み取ったことを活用し、順序に沿って簡単な構成を考えたとつながりある文を書く力をはぐくむ。その力を身に付けさせるために、単元を貫く言語活動として「学校みんなにしようかいするために、のりものブックをつくろう。」という活動を設定した。

「のりものぶっく」をつくるために、まず、読む視点となる2つの問いを単元を貫いて意識させ、その視点から「しごと」と「つくり」などの必要な情報を読み取らせる。そして、3つの自動車の事例について読み取った情報から大事な言葉や文をワークシートに書き抜いて整理し、それらを比較しながら事柄の順序を捉えられるようにする。そして、ワークシートを1冊の冊子にまとめていくポートフォリオ形式の学習により、一人ひとりが単元を貫く言語活動を常に意識しながら、意欲的に学習に取り組み、学びの実感をもてるようにする。書くことが難しい児童もいるため、1つ目の事例では「言葉の穴埋め」2つ目の事例では「大事な文の写し書き」3つ目の事例では「自分で必要な情報を選択して文を書く」もしくは、支援の必要な児童は「実態に応じたワークシートを使う」というようなスモールステップで取り組めるワークシートを用意する。それにより、簡単な構成を考えたり、句読点を使ってつながりある文を書いたりすることができるようにする。

自分の好きな乗り物についての説明文を書くためには、児童にとって身近な図鑑や本などから情報を得る必要がある。そのため、図書室や地域の図書館を活用して、学級文庫に「のりものコーナー」を設置し、乗り物に関する本や図鑑の並行読書に取り組ませる。また、3次の活動に見通しをもって取り組めるよう、2次の各時間の終末にその時間に学んだ視点で「のりものブック」を作る際に必要な情報を読み取るための読書の時間を確保する。

本校の研究とのかかわりとして、本単元では、説明の順序や内容の大体を読み取り、叙述や挿絵を根拠として、1年生なりに考えや理由を順序立てて説明する力を身に付けさせる。そのために、既習の揭示や話型を提示することで、「考え」のみでなく「わけ」を加えて説明することができるように指導していきたい。相手意識をもって説明をしたり、一人ひとりの考えをみんなで共有しながら学び合ったりすることができるよう、動画や写真、教科書の挿絵を提示するなど、視聴覚機器を使って視覚的な支援をしていく。

## 4. 指導計画と評価計画（総時数 1 1 時間）

時	次	目標	主な学習活動	評価規準（評価方法）	評価観点			
					関	書	読	言
1	一	「じどう車くらべ」を読み、学習の見通しをもつことができる。	・「じどう車くらべ」を読み、挿絵や経験をもとに話し合い、「のりものブック」を作ることを知る。	・説明文に興味をもち、学習の見通しをもとうとしている。 (発言・行動観察)	○			
2	二	「仕事」と「つくり」を確かめながら読むことができる。	・教材文の挿絵と文を照応させながら、「仕事」と「つくり」の関係の大体をつかむ。	・「仕事」に対応する「つくり」に注意しながら読んでいる。 (発言・ワークシート)			○ イ	
3		「バスやじょうよう車」の「しごと」と「つくり」を書き抜くことができる。	・「バスやじょうよう車」には、「しごと」と「つくり」があることを知り、それらの文を書き抜く。	「バス」や「じょうよう車」の「しごと」と「つくり」を書き抜いている。 (ワークシート)			○ エ	
4		「トラック」の「しごと」と「つくり」の関係や文章の構成をとらえることができる。	「トラック」の「しごと」と「つくり」を書き抜き、文章の簡単な構成をとらえる。	・「トラック」の「しごと」と「つくり」の関係や文章の構成をとらえている。 (発言・ワークシート)			○ イ	
5		「クレーン車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、書き抜くことができる。	・「クレーン車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、それらの文を書き抜く。	・「クレーン車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、書き抜いている。 (発言・ワークシート)			○ エ	
6	本時	「はしご車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、説明することができる。	・教材文をもとに、「はしご車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、説明する。	・「はしご車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、説明している。 (発言・ワークシート)			○ エ	
7	三	自動車の絵本や図鑑から、書きたい自動車の情報を集めることができる。	・書きたい自動車の「しごと」と「つくり」に関する言葉や文章、絵を見付ける。	・自動車の絵本や図鑑から、書きたい自動車の情報を集めている。 (発言・ノート)	○		○ カ	
8		書きたい自動車を選んで「しごと」と「つくり」を考えて書くことができる。	・選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書く。	・書きたい自動車を選んで「しごと」と「つくり」を考えて書いている。 (ワークシート)		○ イ		○ ウ
9		正しい片仮名を使って、説明する文を書くことができる。	・書いた文章を読み返し、正しい片仮名を使って説明する文を書く。	・正しい片仮名を使って、説明する文を書いている。 (ワークシート)		○ ウ		○ イ
10		書いたものを読み合い、感想を伝えることができる。	・「のりものブックトーク」で友だちの書いた説明文の発表を聞き、感想を伝え合う。	・書いたものを読み合い、感想を伝え合っている。 (発言)		○ オ		

5. 本時の学習（第6時）

- (1) ねらい 「はしご車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、説明することができる。
- (2) 評価規準 **読**「はしご車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、説明している。
- (3) 準備 短冊、ワークシート、挿絵、図鑑、絵本、タブレット、テレビ、パソコン
- (4) 展開

過程	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・評価◎ 支援○
つかむ (5)	1. 前時までの学習を振り返る。 ○分かりやすいのりものブックを書く時のひみつは何かな。 ・「しごと」にぴったりの「つくり」を書くよ。 ・3つの自動車の文は、順番が同じだったね。 ・「そのために」がないと、わかりにくいよ。	・単元を貫く言語活動について確認し、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。 ・既習の3つの自動車についての学習掲示を提示する。
考える (10)	2. 課題をつかむ ○はしご車はどんなしごとをしているのかな。 ・高い所にいる人を助けるよ。 ・高い所の火を消すよ。 <b>課題</b> はしご車のしごとにぴったりのつくりを見つけよう。	・挿絵を見せ、はしご車の仕事について考えさせる。 ・教科書の叙述に着目させ、「かじのときにはたらくじどう車」であることを押さえる。 ・既習の自動車の「しごと」と「つくり」の関係を意識しながら音読をさせる。
学び合う (20)	3. 絵本を見て、はしご車の「しごと」に対応する「つくり」を考える。 ○はしご車の「しごと」にぴったりの「つくり」はどれかな。 ・高い所にいる人を助ける仕事にぴったりのつくりはどれかな。 ・長いはしごがついているね。 4. ペアで話し合う。 ○はしご車は、どんなしごとをしていますか。そのために、どんつくりになっていますか。 ・高い所の火を消す時は、高い所に上らなくちゃいけないから、長いはしごがついているんだよ。 5. 自分の考えを全体で共有する。 ・ぼくは、はしご車は高い所に上る仕事をしていると思います。そのために、バスケットがついています。なぜかという、バスケットがついていなかったら、人が乗れないからです。 ・わたしは、はしご車は高い所にいる人を助ける仕事をしていると思います。そのために、長いはしごがついています。どうしてかという、わたしも高い所に上る時は、はしごを使うからです。	・様々な「しごと」や「つくり」があることに着目させ、それぞれの「しごと」に対応した「つくり」を組み合わせることを伝える。 ・はしご車について書かれている絵本や図鑑を与え、必要な情報を読み取らせる。 ・自分の考えを順序立てて話せるよう話型を示し、発表の仕方を提示する。
まとめる (10)	6. 動画で「しごと」と「つくり」を確かめる。 7. 本時を振り返り、まとめる。 <b>まとめ</b> はしご車は、(たかいところのひをけす)しごとをしています。 そのために、(ながいはしご)がついています。(車たいがかたむかないように、じょうぶなあし)がついています。 8. 「しごと」と「つくり」の関係を考えて並行読書をする。	・考えを深めるために、どの自動車にも共通した「つくり」と、はしご車の「しごと」を組み合わせ、児童に問い返す。 ◎「はしご車」の「しごと」と「つくり」の関係をとらえ、説明している。 <b>読</b> (発言・ワークシート) ○「しごと」に対応した「つくり」を見つことが困難な児童には、既習の掲示を使ってそれぞれの「しごと」に応じた「つくり」となっていることを想起させる。
		・キーワードを提示し、児童の言葉でまとめる。 ・単元末でつくる「のりものブック」と同形式のワークシートに文を書き込む。 ・本時で学んだ視点で読書活動に取り組めるよう助言する。

(5) 筋道を立てて説明するための本時の位置付け

付けたい力	教師が求める説明	支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>はしご車の「しごと」に対応した「つくり」を考え、絵本の情報や自分の経験をもとに、既習の「わけ」の言い方（話型）に沿って考えと理由を話す力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はしご車は、～の仕事をしています」と思います。そのために、…がついています。（…のつくりになっています。）なぜかという（どうしてかという）と／わけは）、～だからです。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書（上）の「わけをはなそう」で学んだ話型を学習掲示を使って確認させる。</li> <li>聞く人が分かるように、図鑑や絵本の挿絵を使って「しょうこ」（根拠）を伝えるとよいことを助言する。</li> </ul>

(6) 板書計画

